

次号予告

特集 整形外科

Lenox Hill Derotation Brace

……………国立身障リハビリセンター学院 田 沢 英 二

脊柱側彎症に対する milwaukeebrace と under

arm brace の治療成績の検討……………順天堂大学・整形外科 山内 裕雄・他

よくみられるスポーツ損傷

(傾向と予防に関する助言)……………東京大学・教育学部 武藤 芳照・他

下肢免荷装具の負荷について

(負荷に繋がる要素)……………近畿義肢製作所 浅 井 一 郎

と び ら 内なるものは外にあり……………国療東京病院付属リハ学院 鷺 田 孝 保

講 座 痛みの生理学11. 痛みに対する物理療法

の機序(II)……………神奈川リハセンター七沢病院 福 井 圀 彦

薬物療法の基礎知識 4. 小児(特に肢体

不自由児施設入園児について)……………整肢拓桃園 鈴木 恒彦・他

雑誌レビュー “The British Journal of Occupational Therapy”

(1982年版)まとめ……………国療近畿中央病院附属リハ学院 谷 口 英 治

プロGRESS 躁うつ病の生化学的研究(最近の進歩)……………山梨医科大学 飯 屋 哲 彦

養成校紹介 長崎リハビリテーション学院……………天 満 和 人

国立療養所箱根病院付属リハビリテーション学院……………永井 淳一・他

あ ン テ ナ 米国における感覚統合の慢性分裂病への応用

……………神戸大・医療技術短大 小 平 憲 子

資 料 第18回理学療法士・作業療法士国家試験問題

一模範解答(VI)

編集後記

理学療法・作業療法の将来はどうなるのか? そして、それに答えられるのは誰か? 占い師に占ってもらってみようとも考えてみた。しかし、理学療法・作業療法について何も知らない人間に問うたところで確かな答えなど得られるわけがない。やはり当事者であるわれわれが過去の歴史と現状を見つめながら将来像を描き、その実現に向けて日々の課題に挑戦し研鑽して行く他に方法はあるまい。

10年単位で理学療法・作業療法の流れを顧みると、そこに明らかな進歩が確かめられる。われわれはそれを土台にして終りなき戦いを続けることになる。われわれは妥協のない人間をもっと必要としている時代にいる。

「教育・職域の将来」については中屋氏と鈴木氏に執筆していただいた。中屋氏は

詳細なデータを収集され、特に教育面について重点的に述べておられる。鈴木氏は大学院(米国)での留学で充電され、新鮮な感覚で展開していただいた。

「研究」についてはアンドリュース氏と田川・関氏に執筆していただいた。アンドリュース氏には日本語で書いていただき、一部私の方で修正させていただいた。多少皮肉った部分もあるが的確に射られているとおもう。田川氏らは研究の動向を中心に述べておられる。また、アンドリュース氏の論文の中で、養成期間中に研究方法の基礎的知識を修得させておくことの重要性に触れておられる。

研究と報告で伊藤氏、短報で山本氏らの論文がある。近年、教育機関に勤務する人人の研究論文が増えているようだが、好ましい傾向とおもえる。(奈良 勲)

<編集顧問>

天 児 民 和
九州労災病院名誉院長

五 味 重 春
埼玉県障害者リハビリセンター所長

砂 原 茂 一
国立療養所東京病院名誉院長

津 山 直 一
東京大学教授整形外科

水 野 祥太郎
川崎リハビリ学院長
(五十音順、以下同じ)

<編集委員>

上 田 敏
東大リハビリ部

荻 島 秀 男
ペインリハビリテーションクリニック高島平
整形外科

大喜多 潤
兵庫県リハビリセンター

寺 山 久美子
都心障害者センター

富 岡 詔 子
信州大学医療技術短大

奈 良 勲
金沢大学医療技術短大

福 屋 靖 子
筑波大学

松 村 秩
都養育院リハビリ部

<編集同人>

安 達 克 己

池 田 俊 雄

伊 東 元

宇都宮 初 夫

大 丸 幸 翼

金 子 矩 子

鎌 倉 昌 子

紀 伊 信 子

木 村 治 夫

駒 沢 馨 明

佐 藤 智 子

嶋 田 昌 家

鈴 木 正 明

関 橋 久 隆

高 屋 長 隆

中 橋 元 隆

橋 沢 しげ子

藤 矢 令 子

山 下 隆 昭

(担当 細田・西塚)